とけていくテクノロジーの縁結び

新井 英夫

体奏家/ダンスアーティスト、2022年夏にALS(筋萎縮性側索硬化症)の診断を受ける

佐久間 新

ジャワ舞踊家/たんぽぽの家「ひるのダンス」ファシリテーター

運営

Art for Well-beingチームのスタッフ、全体監修の小林茂さん

筧 康明

インタラクティブメディア研究者/アーティスト/東京大学大学院情報学環准教授

2018年度

共創の舞踊劇『だんだんたんぽに夜明かしカエル』

佐久間さん(演出・振付)、筧さん(IoT監修)、たんぽぽの家(制作)らが協働して、障害のある人、ケアする人、ダンサーや音楽家によるユーモアを交えた舞台をうみだしました。

2022年度

2022年度の取り組み:分身ロボットOriHimeとダンスの可能性を探る

分身ロボット「OriHime」を使って新井さんと佐久間さんがリモートで踊ることを2回に渡って実施しました。

2023年 11月

パートナーとしてふだん新井さんのケアをしている板坂記世子さんも参加

新井さんと実際に会って踊りたいです。その際は、対話しながら一緒に開発してくれる人といろんな実験を試みたいです

根気よく実験に付き合ってくれる開発者は果たしているのだろうか…。そうだ、一緒に舞踊劇をつくった筧さんがいた!

Art for Well-beingチームから筧さんへプロジェクト参画打診

第1回ワークショップ:初めてのリアルセッション実施 @東十条区民センター

新井さん、佐久間さんの初めてのリアルセッションの場に、パフォーマンスの助っ人として板坂さんも加わりました。
筧さんはそれを見て、「ALSとともに踊る身体を感じる」装置を考えるヒントにしました。

コミュニケーションツールというとどうしても言語に焦点がいきがちですが、自分の感覚を相手と共有する、拡張することが大事なように思います

今日はむっちゃリハビリになりました。療養とクリエイティブの合間の、まだ名付けられない領域があるのだと思います

新井さんと佐久間さんとのあいだで交わされた絶妙な力加減のやりとり

「いま鉛直になった!」という新井さんの感覚が、観ている人にも可視化されるといいですね

みなさんの動きはそれだけでもう有機的で面白かったので、僕が介入してそれ以上何か伝えたりする必要はあるのでしょうか

できるとすれば、みなさんの動きや物との関係の中に存在する、見えない空気の流れを見えるようにすることかもしれません

2024年 2月

筧さん開発デバイスによるリハーサルの実施@東十条区民センター

11月のワークショップを見た筧さんが、今度は、新井さん、板坂さん、佐久間さんにレインスティックと重力加速度センサを素材に用いたデバイスや影絵用のデバイスを開発し提案しました。リハーサル後にプロジェクト名も決まりました。

アートはあんこ、テクノロジーは塩。塩があんこのなかにとけていくことであまみが対比的に際立つかも!

とけるとは、溶ける、解ける、説ける、融ける。いいタイトルですね

とけていくテクノロジーといっても、環境に多数のセンサーを埋め込もうとかそういう話ではないんですよね(小林茂)

テクノロジー自体は消えていっていい、でもそれにより、活性化する関係が残ればいいと思います

テクノロジーは、それぞれの存在が「である」ということがわかる、アンビエントな媒介であるように思います

第2回ワークショップ:限定公開実験パフォーマンスの実施@東十条区民センター

新井さんの医療に関わる方々や、ダンサー、プロデューサー、アート関係者、技術開発者などの人たちが限定公開のパフォーマンスを鑑賞。
パフォーマンス後、1時間半にもおよぶ熱量あるふりかえりの時間を共有しました。

自分の病気の進行に合わせて、自分の感覚の雑味をそのまま残したままフィードバックしてくれるテクノロジーに出会えたら、希望になるなって気がします

介助やリハビリで日々ずっとやっているところから違う関係性が生まれてくることも、このプロジェクトでは大事なことだと思います

新井さんの主治医の先生からも「ぜひいろんな人に見てもらいたい」と言ってもらえてよかったです

体の動きが波になって、この空間の見えない関係が、いろんな感覚で見えたり聞こえたりしてくるというのが、やりたかったんです